

WE
LOVE

April 2023

地域医療支援学レター

vol.
43



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
- リレートーク第43回
- 地域の総合病院・診療所・介護施設への“架け橋”として
独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)玉造病院
病院長 池田 登 先生

活動報告

令和4年12月15日(木)10:00~16:00

臨床実習入門特別プログラム
男女共同参画講義

【場 所】島根大学医学部実習棟P3教室
【対 象】島根大学医学部医学科4年生
【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

臨床実習直前の医学科4年生を対象にキャリア教育として島根県医師会と共催で行っている。午前は広島大学蓮沼直子先生より「ライフイベントとキャリア」について教授頂き、医師夫婦の実際にあり得るトラブルシナリオに対して、グループワークを行った。また、今後の展望について、現在から卒業後15年後までの「WORKとLIFE」について「キャリア年表」を作成し、それぞれの将来について思いを馳せた。

午後からは、特別講演としてWHO危機管理シニアアドバイザーの進藤奈邦子先生にお話し頂いた。WHOで感染症の分野で活躍されており、ジュネーブからのライブ配信となった。COVID-19の基礎知識や世界最新の現状などについてわかりやすく教えて頂いた。学生達は、いつもとは違う分野の授業で、臨床実習を前にして、将来医師になった時のイメージを膨らませることができたように考える。



令和5年2月20日(月)17:00~18:00

令和4年度
第2回えんネット交流会

【場 所】みらい棟2階共通カンファレンスI
【参加者】女性医師3名、学生2名

今年度第2回えんネット交流会を開催した。今回は参加人数5名と少人数であったが、距離が近い分、お互いについてじっくりと話し合い、知ることができた。仕事と家庭の両立については、「子供がいる、いない」で変わってくるが、どちらかの立場にしか立つことができず、互いの理解が及ばない場合、誤解が生じ軋轢を生んでしまうことが話題に上った。

キャリアについての考え方や歩み方も様々である。参加者の考えを聞き、思いを共有する中で、課題から生まれる新たな仕組み作りが発想できるのではないかと考える。

また、今回初めて参加して学生からは、「楽しかった。もっといろんな人にこの会のことを知って欲しい。」と感想をもらった。参加するのはハードルが高いと感じる方もあるかもしれませんが、ちょっとしたぞいてみませんか。笑顔で皆さんをお迎えます。



令和5年3月13日(月)~3月17日(金)

令和4年度地域医療体験実習I
(春季地域医療実習)がスタート!!

【参加者】22名 大学:島根大学21名、千葉大学1名
学年:1年12名、2年4名、3年5名、4年1名

今年の冬は新型コロナウイルスと季節性インフルエンザが同時流行した。春季実習を前に新型コロナウイルス感染者の減少が見られ、春季夏季実習では1年半ぶりに島根県全域で実習を行うことになった。

開始1週間前には、佐野教授から「Keep an open mind, be brave and have fun!!」のタイトルで実習前オリエンテーションが行われた。「実習の意義」「実習を楽しむための準備」「感染拡大防止対策」等が伝えられた。

保健所ではオリエンテーションとして各圏域の概況や地域医療についてのお話を伺った。参加者は低学年が多いが、臨床の知識が少ない中でも地域医療の現状を肌で体感し、これから更に地域医療へのモチベーションを上げてもらいたい。



令和4年12月19日(月)18:00~19:30

地域医療体験実習II(フレキシブル実習)・
ポストコロナ事業実習報告会(Web開催)

【参加者】学生14名

令和4年7月から11月の期間に地域医療体験実習II(フレキシブル実習)とポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業の実習に参加したのは、延べ25名であった。

県内を主体にした地域医療体験実習IIには、大田市立病院・隠岐病院・浜田市弥栄診療所・浜田市波佐診療所にご協力を頂いた。

ポストコロナ事業実習では、岡山県哲西町診療所、香川県小豆島中央病院、鳥取県の日南病院にご協力を頂いた。

報告は臨地での実習指導を通して多くの学びがあり、これからの課題も明らかにしていた。中でも印象的であったのが6年生の報告で、自身の実習で問われた「医師の多様性」について、症例の設問を加えて低学年の学生に投げかけるプレゼンが行われた。自己の学びを、切り口を変えて参加学生に思考させる。まさに学びの共有で「ラボ」な報告であった。



令和5年3月4日(土)11:00~15:30

第5回しまね総合診療の集い
(ハイブリッド開催)

【場 所】バレットごうつ 大ホール
【参加者】対面46名 Web15名 計61名

第1部は、上野先生が「ACPと意思決定支援について」というテーマで、先生自身が経験された症例をもとにお話をされた。その中で「患者本人の価値観・人生観を共有することが重要である」と強調された。続いて、岡本先生が「医者何十年目、総合診療医が自宅で看取りをしてみました」をテーマに、様々な事に葛藤しながら家族を看取られたお話をされ、参加者も真剣な眼差しで聴講した。

第1部終了後の休憩時間には、島根県内11病院の総合診療専門医育成プログラム紹介ビデオが上映された。

第2部は「感じてみよう、総合診療医の日常」というテーマで、吉村先生、青木先生、波多野先生、木田川先生に、自身の自己紹介や、総合医の日常・経験した症例等をお話し頂いた。グループディスカッションでは、活発な意見交換が行われた。

また、高大連携の一環で「高校生に島根の地域医療に関心を持ってもらう取り組み」として、この春島根大学医学部に入学する特別選抜枠の高校生に「集い」への参加を広報した。5人の高校生が参加し、総合診療の先生方の前で挨拶をするという粋なはからいがとられ、自己紹介を行った。高校生たちは、緊張もピークに達したのではないかとと思われるが、医師6名からの貴重なお話は、一人ひとりの胸に深く刻まれたと思われる。

セミナー報告
SEMINAR REPORT

地域医療Webinar

診療看護師って何者ですか?
~離島で働くS氏の場合~

【実施日】令和4年12月16日(金)18:00~19:00

【講 師】隠岐広域連立隠岐病院 診療所
診療支援室長兼総合診療科診療看護師 芹田 晃道 先生

【参加者】20名

概要

先生は看護師・臨床工学士の資格を持ち、2013年に診療看護師を取得され10年目を迎えられる。これ迄急性期・僻地医療の経験を持たれ、現在4施設目の隠岐病院に従事されている。

最初にナースプラクショナーの歴史を辿り、続いて日本における診療看護師の役割や求める能力を説明頂いた。隠岐病院では「入院患者の疾病管理・患者搬送支援、訪問診療への介入」等、院内外でご活躍である。診療看護師赴任による病院の変化を裏付ける、元同僚の医師からのメッセージや訪問診療件数・在宅看取りの増加等数字でお話し頂き、その専門性が高く評価されていることが分かった。

先生の「多職種に対するリスペクト」がとても印象に残った。チーム医療を実践する上で、多職種の専門性を理解していく事は互いの信頼性を獲得することに繋がり、さらに協働関係を促進する上で重要であることを学んだ。



女性に寄り添う産婦人科のしごと

【実施日】令和4年12月21日(水)12:15~12:45

【講 師】島根大学医学部産婦人科講座
助教 山下 瞳 先生

【参加者】15名

概要

先生は群馬県のご出身で、高校時代に産婦人科医になりたいと島根大学に入学された。

産婦人科は女性にとっては欠かせない診療科である。産婦人科は①生殖②産期③腫瘍④女性医学が主な柱となっている。生殖は内分泌分野にもかわり、腫瘍は手術を要することもあって、産婦人科一つの中でも内科的要素から外科的要素まで多岐にわたっている。先生ご自身は、産婦人科専門医を取得され、続いて医学博士も取得されて、順調にキャリアを積まれてこられた。

先生は、仕事ばかりではなく趣味や息抜きも大事であると話され、旅行や音楽鑑賞で忙しい日々の疲れを癒しているそうである。笑顔の可愛い先生で、激務のイメージがある産婦人科でも頑張っていけることを教えて頂き、今後の進路を考える際に役に立つ内容であった。



食べることができなければ病気も防げない!

【実施日】令和5年1月27日(金)18:00~19:00

【講 師】島根県立大学 看護栄養学部 健康栄養学
科 講師 中畑 典子 先生

【参加者】14名

概要

中畑典子先生は現在、島根県立大学看護栄養学部健康栄養学科で勤務されている。以前は、当講座の教員として、医学生の教育に携わられていた。

今回、世界の栄養問題(先進国・開発途上国)、トンガ王国での栄養指導や調理指導、栄養素(5大栄養素・新しい栄養素)等のお話をして頂いた。生活習慣病等の発症因子としての食事や、高齢者の栄養補給についての社会的関心が近年高まっており、医療従事者はよりの確かな栄養知識・スキルを求められている。そうした中で、大変有意義なセミナーであった。

栄養は、人間にとって不可欠であり、栄養の不足や過剰摂取は健康を損ね、病気の原因にもなりうる。世界的にも「飢えと肥満」が問題視されている中で、今一度、栄養=食べるということについて、今一度、見つめなおす必要があると感じた。

Career Webinar



病理医になる方法教えます!

【実施日】令和5年1月16日(月)12:15~12:45

【講 師】島根大学医学部病理学病態病理学
教授 新野 大介 先生

【参加者】15名

概要

新野先生は令和4年8月1日に病態病理学の教授として着任された。長崎大学のご出身で学生時代は柔道部に所属され、全日本で優勝するという猛者の一人である。先生は、学生時代から病理医を志望されていたが、当時卒業後すぐにはハードルが高く、血液内科に入学され、大学院修了後2年目に病理医としての道を歩まれた。

先生は今後島根県内で活躍する病理医を増やすために、次の3つ方針を掲げられている。「①器官病理学・病理部との連携強化②病理専門医を取りやすくする③病理学教室の魅力を上げる」である。また、病理学会が作成した病理医紹介ビデオを見せて頂き「ドクターズドクター」と言われる所以や魅力をご紹介頂いた。

先生がおおえになる「病理医に向いている人8ポイント」等、病理医育成に向けての構想をお話し頂き、学生達には未来が描けるお話であった。



益田圏域における医療連携再構築の現状2023

【実施日】令和5年2月13日(月)18:00~19:00

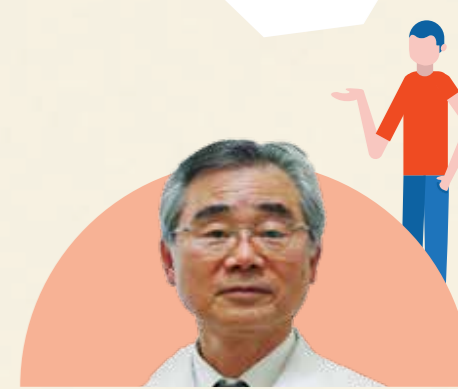
【講 師】益田赤十字病院
病院長 木谷 光博 先生

【参加者】23名

概要

前半は病院管理者・経営者としての観点から、後半は人材育成の見地から多くのメッセージを頂いた。最初に島根県の医療事情並びに益田圏域の病床機能について、地域医療構想をベースに医療連携協定を結ばれている病院を例に挙げてお話し頂いた。学生達には地域医療のキーワードを示しながら、学習の必要性を伝えられた。

後半は、先生が尊敬される緒方洪庵と中村哲医師の名言を紹介され『医の精神』を教示頂いた。また、学生達に「皆さんにはぜひ地域での経験をしてもらいたい。本当に困っている方と話すこと、そこで一生懸命働くスタッフと語ること、そして患者さんを診察するという経験は、長い医師キャリアの中で必ず最も重要なパートになる。自分の存在価値を知り、もっと勉強しなくてはと、医師としてのモチベーションも高まる。」とメッセージが贈られた。



外科医としての歩み

【実施日】令和5年2月27日(月)12:15~12:45

【講 師】島根大学医学部外科学講座消化器・総合外科学
教授 田島 義証 先生

【参加者】30名

概要

先生は今春退官を迎えられる。外科医としての歩みを2部構成でお話し頂いた。

第1部は「医師への道のり」について、幼少期のエピソード、大学時代の課外活動、進路選択について話された。中でも課外活動は「昼間は機械体操部、夜間は浜口雀荘クラブの正会員になり麻雀に動んでいた。」とサラリとやや強面のポーカークフェイスで話され、突っ込みどころを失ってしまった。

第2部は「医師としての資格」について、「学位」と「専門医」は極めて重要と話された。具体的には先生の実際を通してお話し頂いた。先生は、「リサーチとは、臨床で起こる疑問を研究で解決して、臨床に戻すものである。リサーチの面白みはやってみて初めて分かった。」と話され、学生達に朝永振一郎博士の「科学の花」を贈られた。

最後に、身に付けてほしい社会人としてのマナーを番外編で教示頂いた。



独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)
玉造病院
病院長
池田 登 先生

当院は2014年4月に玉造厚生年金病院から地域医療機能推進機構玉造病院(JCHO玉造病院)に名称変更されました。山陰地域では古くから整形外科とリハビリテーションに強みを持つ病院として知られていますが、病院の特徴は時の地域のニーズに応じて変遷し、多様化しています。今回は現在の当院の地域における役割について紹介します。

- 1) 整形外科診療、主に関節や脊椎などの手術を要する慢性疾患の患者を対象としています。年間手術件数は約1000件、少数ですが外傷例もあります。
- 2) 松江市内の総合病院の後方支援病院として急性期治療を終えた患者を受け入れ、回復期のリハビリテーションと自宅や介護施設への退院支援を行っています。
- 3) 地域の診療所の先生からの様々な入院要請に応じています。いわゆる地域包括ケアシステム内における病院としての役割です。

上記対象患者の多くは何らかの内科疾患をお持ちの高齢者です。適切な診療は整形外科医、総合診療内科医、リハビリテーション医の相互の協力のもとではじめて成り立ちます。現在、総合診療を担っている先生やそれを目指している先生、もちろん整形外科の手術をたくさん経験したいと考えられている先生も大歓迎です。興味がある先生は是非当院にご連絡頂ければ幸いです。



独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)
玉造病院
〒699-0293 島根県松江市玉湯町湯町1-2
TEL 0852-62-1560(代表) FAX 0852-62-2546

シンポジウム ナショナルミニマム不在の医療・交通 —これからの生活保障に向けて—

日本プライマリ・ケア連合学会学生・研修医部会中四国支部(代表:島根大学医学部医学科4年 福田 学)は、令和5年2月26日(日)、地域医療支援学講座等のご後援をいただき、附属病院において表題のシンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、法で供給義務を規定される郵便、通信、水道などの生活基盤と異なり、国が保障する最低限の生活水準を意味する「ナショナルミニマム」への国民合意が存在せず、地方自治体によって辛くも支えられているのが現在のへき地医療であるとの課題意識の下に計画されました。この状況はへき地医療に限らず、過疎地交通もまた同様の



医学科4年 福田 学さん

課題を有しています。本シンポジウムの特色は、両分野の専門家や実践家を同時にお招きすることで、より相対的な視点から今後の展望について考えた点に存じます。

当日は会場、オンラインを合わせて約100名の参加があり、単なる赤字解消のための改善効率化を乗り越え、達成すべき政策目標の明確化の必要性、国の財政保障とともに具体的な政策立案・執行における地域への権限移譲の重要性等が学術的考究、実践的事例に基づき報告された後、両分野の有識者間で意見交換が行われ、持続可能な地域社会をつくる上で医療・交通をどれだけ守り、どう制度的に担保するのか、ということについて議論を深めました。

※ 詳細な開催報告は、以下の公式ウェブページをご参照ください。
<https://www.notion.so/shimane-med/f50c41270138424da4537d33c929e3cd>

今後の予定

Career Webinar

- 令和5年4月21日(金)12:15~12:45
講師:坂口 公太 先生
島根大学医学部附属病院 総合診療医センター 助教
- 令和5年5月9日(火)12:15~12:45
講師:佐藤 寛大 先生
島根大学医学部内科学第四 循環器内科 助教
- 令和5年6月予定
講師:二階 哲朗 先生
島根大学医学部 麻酔科学講座集中治療部 教授

地域医療Webinar

- 令和5年4月24日(月)18:00~19:00
講師:上野 伸行 先生
浜田市国民健康保険 あさひ診療所 所長
- 令和5年5月19日(金)18:00~19:00
講師:野津 和巳 先生
医療法人大学前つ内科クリニック 院長

島根大学医学部特別選抜卒医学生 新入生説明会・意見交換会

令和5年4月4日(火)17:30~19:00

令和5年度第1回しまね総合診療の集い

令和5年5月予定



レターをお読みいただきありがとうございます。
レターのキーカラーは春をイメージする淡い黄色で、暖かな春の陽光と新たに始まる生活への希望感を表現しています。
今年の春は暖かく、木々のたたずまいは新緑からみるみるうちに夏の深緑に移り変わろうとしています。溢れるような光と緑のエネルギーを受けて、皆様健やかに新年度をスタートしましょう。

